

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスととと		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 31日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 31日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 1月 1日		～ 令和8年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問支援開始前に保護者や児童との面談を行い、児童の特性把握と保護者・利用児童の思いを尊重した支援を提供している。	利用している児童について療育事業所で行った言語・見る力・身体機能面・社会性などの複数分野での評価をもとにして保育所等訪問支援を行っている。	学校や保育園、幼稚園、こども園から共有していただいた事や訪問支援時の様子などを書く療育機関とも共有し包括的な支援を行っている。
2	児童の苦手なことをスモールステップで取り組み、楽しみながら活動や学習を行えるよう工夫しています。	児童の活動や学習への取り組み状況を観察し作業分析を行い、児童がどのように取り組めば失敗体験とならないか都度アセスメントしながら支援を行っている。	訪問支援時の児童の様子をご家族にHUGにて報告しております。また、自宅でも取り組める活動をSNSなどご家族に対しては面談時にお伝えしています。
3	専門職が多数在籍しているだけでなく、学校や保育の現場を経験しているスタッフも所属しているため、様々な角度で意見を交わした上で、支援プログラムを作成しております。	必要に応じて同じ系列事業所の専門職にも保育所等訪問支援に同行していただき、保護者・先生と一緒に評価を実施し、その場で面談を行っている。	専門職が中心となって研修を実施しております。専門職から他の職員へも研修を実施し、様々な要素を取り入れた活動を実施できるように企業内研修制度を設けています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	メールでの活動報告等の連絡はあるものの、交流会などの機会が少ない。 モニタリング時以外に個別相談の機会が少ない等のコミュニケーション不足。	保護者とのコミュニケーション不足に対する認識不足。 (活動報告等のやり取りでコミュニケーションが取れていると思っている点)交流会を実施するにあたっての企画・運営する為のマンパワー不足。	個別相談会の開催(2～3ヶ月1回程度)。 保護者交流会の開催(年1～2回)。個別相談会では、保護者の悩みに寄り添い、具体的なアドバイスを行う。 交流会では、テーマを設け、情報交換や親睦を深める。
2	父母会のように、ご家族が一堂に会してコミュニケーションを取る会の実績がありません。 保護者同士の交流不足。	保育所等訪問支援を行うスキルをもつ職員の不足。	連絡調整や授業参観後の話し合いの為、時間が必要になる。 そのため決まった方法ではなく、各訪問先に合わせた調整方法などが必要である。訪問先と検討し柔軟に対応していく。
3	ペアレントトレーニングとしての家族支援プログラムの研修会の実施が行っていません。	個別の面談時や担当者会議、学校などでお会いした時に児童の困りに寄り添えるご家庭でも取り組める内容や声掛け等のアドバイスを行っています。個別での対応を行っているため、研修会の実施などの大きなイベントとしては実施ができていない状態です。	連絡調整や授業参観後の話し合いの為、時間が必要になる。 そのため決まった方法ではなく、各訪問先に合わせた調整方法などが必要である。訪問先と検討し柔軟に対応していく。